

令和6年7月15日～7月21日までの全国の暑さ指数(WBGT)の観測状況
及び熱中症による救急搬送人員と暑さ指数(WBGT)の関係について
(令和6年度第12報)

環境省大臣官房環境保健部企画課 熱中症対策室

1. 全国の暑さ指数(WBGT)の観測状況について(注1)

7月15日～7月21日の全国11都市(注2)の平均値を過去5年間(2019～2023年)の平均値と比較すると、7月16日から21日は高く、18日、20日、21日は3程度高くなりました。

総務省消防庁の発表によると、11都道府県(注2)における熱中症による救急搬送人員(注3)の合計は、3,590人でした(図1)。

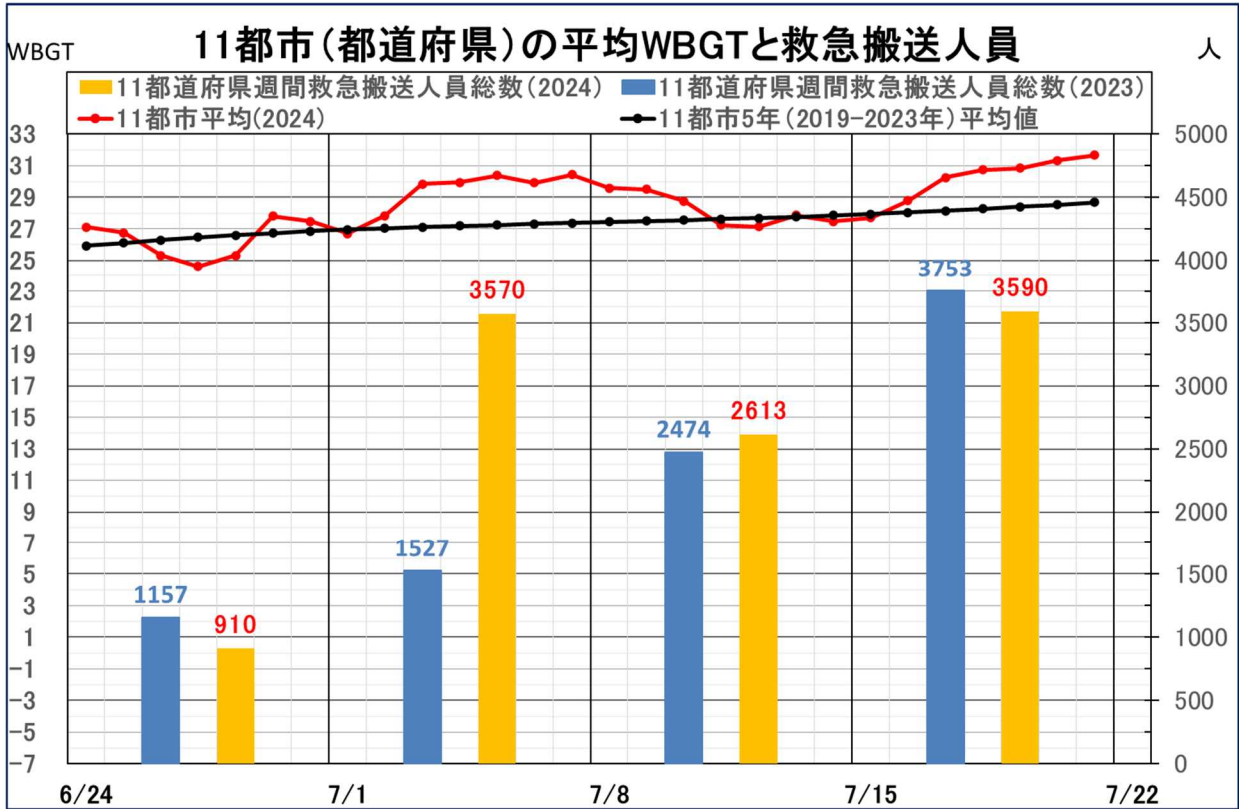


図1 全国11都市の平均日最高暑さ指数(WBGT)状況と救急搬送人員(11都道府県)の動向

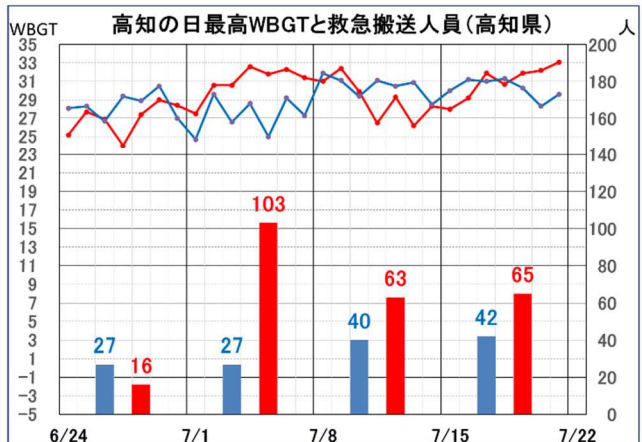
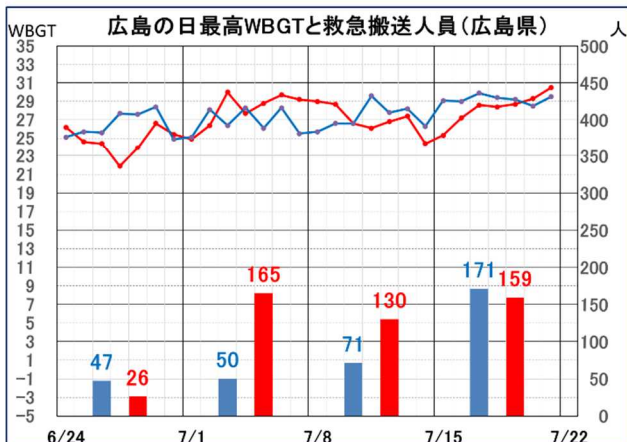
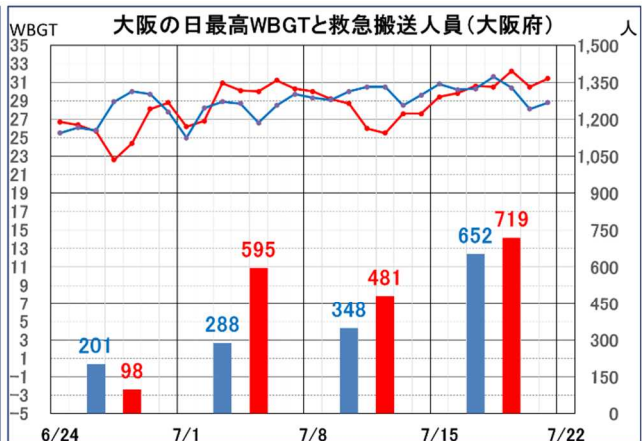
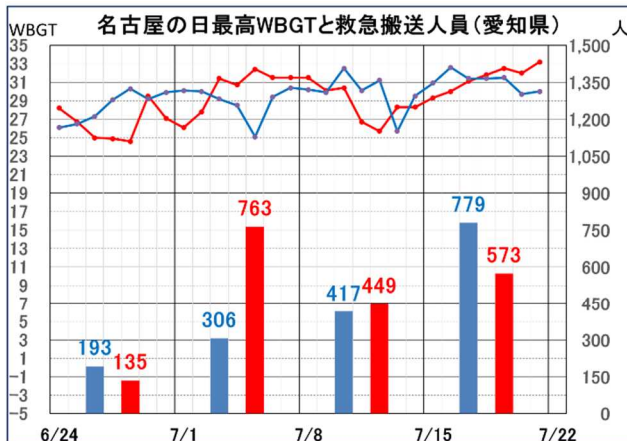
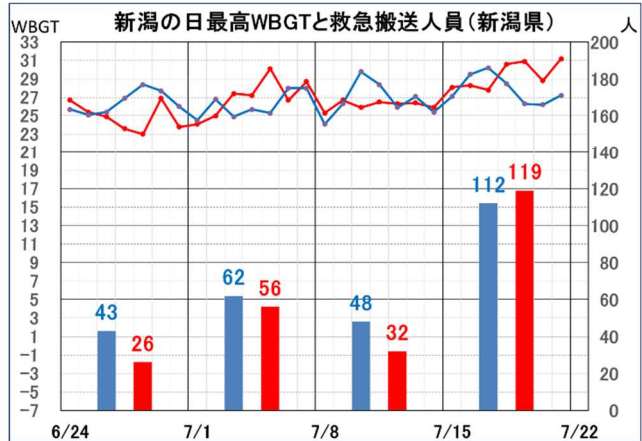
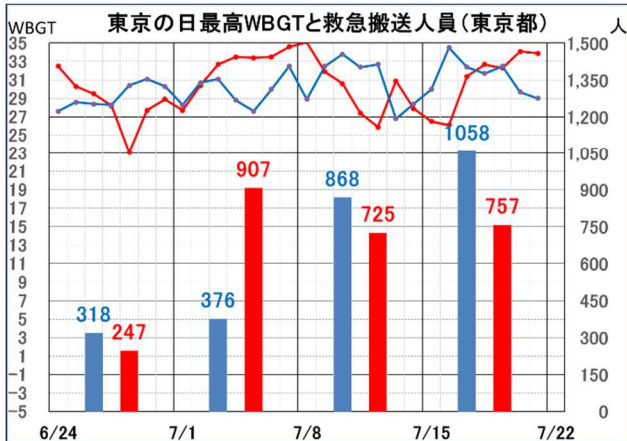
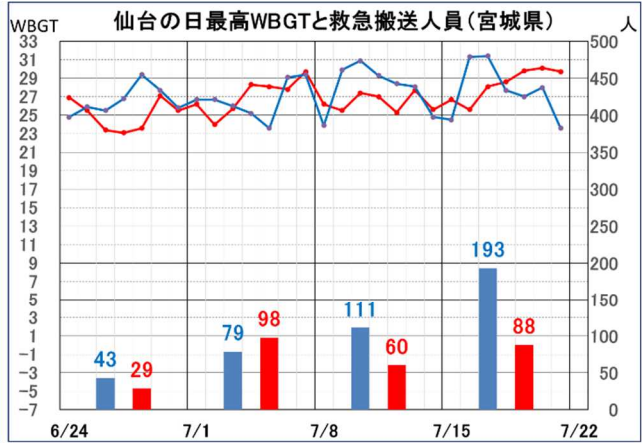
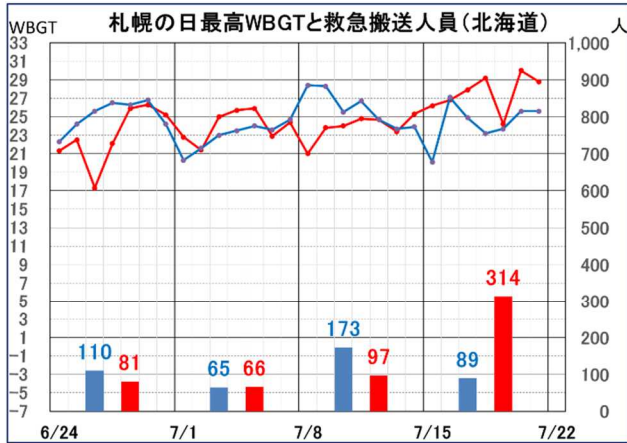
表1は、今期間における全国11都市の日最高暑さ指数(実況値)を示しています。札幌、仙台を除く各都市で「危険」を示す31以上となる日がありました。特に東京では34、名古屋、高知、福岡、鹿児島及び那覇では33となる日がありました。また、札幌、仙台も「嚴重警戒」を示す28以上となる日がありました。

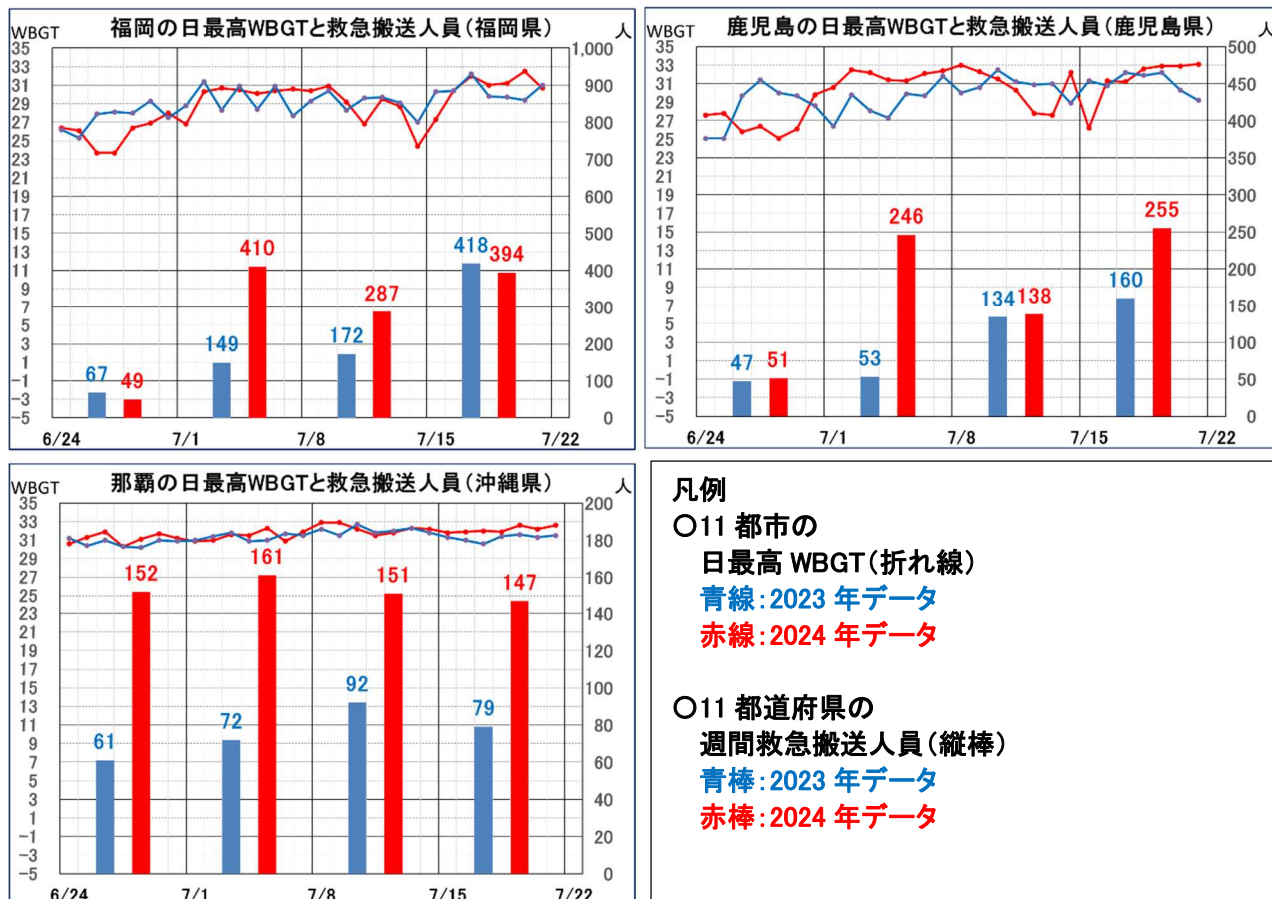
表1 全国11都市の日最高暑さ指数(WBGT)(7月15日～7月21日)

日	札幌	仙台	東京	新潟	名古屋	大阪	広島	高知	福岡	鹿児島	那覇
15	26	27	27	28	29	29	25	28	27	26	32
16	27	26	26	28	30	30	27	29	30	31	32
17	28	28	31	28	31	31	29	32	32	31	32
18	29	29	33	31	32	31	28	31	31	33	32
19	24	30	32	31	33	32	29	32	31	33	33
20	30	30	34	29	32	31	29	32	33	33	32
21	29	30	34	31	33	31	31	33	31	33	33

注1 本資料の暑さ指数(WBGT値)は速報値です。確定値とは異なる場合があります。
注2 本資料における全国11都市: 札幌市、仙台市、東京・文京区、新潟市、名古屋市、大阪市、広島市、高知市、福岡市、鹿児島市、那覇市
注3 総務省消防庁の発表資料を元に環境省で作成: <https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post3.html>

2. 全国 11 都市の日最高暑さ指数 (WBGT) と熱中症による救急搬送人員の状況





3. 全国の熱中症警戒アラート等の発表状況

直近4週間(6月24日～7月21日)の、全国(58の府県予報区等)における熱中症警戒アラートの延べ発表回数は以下のとおりです(表2)。なお、この期間において、熱中症特別警戒アラートの発表はありませんでした。

表2 全国の熱中症警戒アラートの発表状況(6月24日～7月21日)

	6/24～6/30	7/1～7/7	7/8～7/14	7/15～7/21
全国	27	124	70	123
(参考) 昨年	2 (2023/6/26～7/2)	27 (2023/7/3～7/9)	86 (2023/7/10～7/16)	75 (2023/7/17～7/23)

4. 今後の見通し

気象庁の2週間気温予報の概要は以下となっています。(注4)

(7月24日発表、予報期間7月25日～8月7日)

北海道地方	向こう2週間の気温は、暖かい空気が流れ込みやすいため平年並か高く、7月25日頃まではかなり高い所もある。
東北地方と東・西日本	向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高い日が多く、7月27日頃までと7月29日頃からはかなり高い日が多い。
奄美地方	向こう2週間の気温は、暖かい空気に覆われやすいためかなり高い日が多い。
沖縄地方	向こう4日間程度は平年並か低くなりますが、7月28日頃からは暖かい空気に覆われやすいためかなり高い。

(参照: 2週間気温予報 <https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/twoweek/?fuk=1>)

注4 予想された気温を、平年と比較して5段階(かなり高い、高い、平年並、低い、かなり低い)で示します。